

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	権利擁護と成年後見(Advocacy and Adult Guardianship)		授業コード	E043251
担当教員名	鈴木 照夫		科目ナンバリングコード	E30932
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	他の科目の修得を履修条件とすることおよび人数制限は行いません。			
受講心得	講義内容をしっかりとノートにとってください。 私語をしないようにしてください。 携帯電話等は電源を切って鞆の中にしまっておいてください。			
教科書				
参考文献及び指定図書	講義の進行にともなって適宜紹介します。			
関連科目	憲法、民法、行政法、更生保護			

授業の目的	①法の考え方を理解する、②社会福祉士として、問題解決のためのツールとして各種法令があることを理解する、③実際に各種の法令を活用できるようになる、④自他の権利を尊重できるようになる、ことが目的です。
授業の概要	下記の4点を主たる内容とします。 1. 相談援助活動と法との関わりについて理解する。 2. 相談援助活動において必要となる成年後見制度について理解する。 3. 成年後見制度の実際について理解する。 4. 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などのため日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：オリエンテーション</b> 講義の内容及び関連科目、受講中の注意事項、評価基準、出席について説明します。	配付資料 事例について考える
<b>第2週：相談援助活動と法との関わり(1)</b> 相談援助活動で想定される法律問題について理解します。	ノート整理 配付資料 事例について考える
<b>第3週：相談援助活動と法との関わり(2)</b> 日本国憲法の基本原理を理解します。特に基本的人権について学びます。	ノート整理 配付資料
<b>第4週：相談援助活動と法との関わり(3)</b> 民法の基礎的知識を理解します。総則、契約、不法行為について学びます。	ノート整理 配付資料 事例について考える
<b>第5週：相談援助活動と法との関わり(4)</b> 民法の基礎的知識を理解します。親族、相続について学びます。	ノート整理 配付資料 事例について考える
<b>第6週：相談援助活動と法との関わり(5)</b> 行政法の基礎的知識を理解します。行政行為について学びます。	ノート整理 配付資料
<b>第7週：相談援助活動と法との関わり(6)</b> 行政法の基礎的知識を理解します。行政事件訴訟および不服申立てについて学びます。また、情報公開についても概説します。	ノート整理 配付資料 事例について考える
<b>第8週：成年後見制度(1)</b>	

法定後見制度(後見、保佐、補助)の制度概要、成年被後見人等の行為能力、成年後見人等の役割について学びます。	ノート整理 配付資料 事例について考える
<b>第9週：成年後見制度(2)</b> 任意後見制度、成年後見登記制度について学びます。	ノート整理 配付資料 事例について考える
<b>第10週：成年後見制度(3)</b> 成年後見制度の最近の動向および成年後見制度利用支援事業について学びます。	ノート整理 配付資料 事例について考える
<b>第11週：日常生活自立支援事業</b> 専門員、生活支援員の役割、日常生活自立支援事業の最近の動向について学びます。	ノート整理 配付資料 事例について考える
<b>第12週：権利擁護に関わる組織、団体の役割と実際</b> 家庭裁判所、法務局、市町村長、弁護士等の役割および社会福祉士の活動の実際について学びます。	ノート整理 配付資料
<b>第13週 権利擁護活動の実際 ～ 第15週</b> ： 権利擁護活動に関する事例検討を行います。	ノート整理 配付資料 事例について考える 演習問題
<b>第16週：期末試験</b> 第1週から第15週までの内容について試験を実施します。	ノート・資料整理
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式 「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブ・ラーニング
<b>備考</b>	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	自他の権利を尊重することができる。
<b>【知識・理解】</b>	相談援助活動に関連する各種法令を理解し、成年後見制度に関する基本的知識を身につけている。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	各種法令を活用することができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	法的な思考方法に慣れる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	20点			
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	60点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点			
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	10点			
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	